

第七回記念 品川蕪品評会

in 品川神社

平成三十年十二月二十三日(日・祝)

江戸時代から復活した品川蕪

品川蕪は、文化元年(1804年)、農事などについて編纂させた博物誌『形成図説』に描かれ、品川宿を代表する野菜だったと推測されます。江戸開府以前から品川は存在していますが、品川蕪の品川への入植経路は諸説あり定かではありません。

春を迎える保存野菜の品川蕪(長かぶ)は、献上野菜として、また多くが漬物にされていたと言われ、江戸の町民にも喜ばれていたことでしょう。

江戸時代には少しずつ消えていった野菜の一つで、昭和初期頃までは少々ながら存在していたようですが、戦前には完全に消えてしまいました。

近年の江戸野菜復活の動きに伴い、2006年より品川蕪の痕跡を探し始め、2年後の2008年、見事品川に復活をもたらしました。現在では農地を全て無くした品川区ではありますが、地元小学校とともに食育活動の一環として、現在「品川区内に農地」を合言葉に児童たちと小さな校内の畑やプランターを使い品川蕪の栽培を続けています。



東海道品川宿なすびの花
代表 大塚 好雄



品川蕪品評会の道のり

品川蕪の収穫を祝おう!

2006年、品川蕪をはじめとした江戸東京野菜復活の声を聞き、復興への活動に参加して早13年。品川伝統野菜復活に尽力し、品川蕪食育活動も丸11年目となります。

地元小中学校や保育園、幼稚園、児童センター、区民農園などに種子を配布し、生育指導などを行ってきた品川蕪普及活動も、現在では区内30以上の小学校が参加し、暮れの風物詩となった品川蕪品評会は今年で第7回を数えます。おかげで品川蕪もすっかり定着し、地元商店とともに商品化を進め、多くの方が食する機会も増えています。

これも関係者みなさま方のおかげと、この場を借りて感謝申し上げます。

主催：東海道品川宿なすびの花

協賛：品川区

(有)マルダイ大塚好雄商店

協力：品川区立児童センター

品川区立小学校コーディネーター



小学生によるプレゼンテーション



品川汁

